報道資料

令和６年（２０２４年）６月６日

～重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生について～

○ 令和6年（2024年）5月25日、県内で、今年6例目となる重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：以下「SFTS」という。）の患者が発生し、6月1日に亡くなられました。

○ SFTS患者の死亡が確認されたのは、今年1例目です。平成25年に届出対象疾患となって以降、本県での患者確認は48例目、患者の死亡確認は10例目となります。（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が平成28年に１例あり。）

○ SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染するといわれ、感染予防策としては**マダニに咬まれないようにすること**が重要です。

○ **主に春から秋頃までは、マダニの活動時期です**。森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、**長袖、長ズボンを着用する**など**マダニに咬まれないよう十分な対策**を講じて下さい。袖やズボンの裾に隙間ができないよう、できるだけ**肌の露出を少なくする**よう注意して下さい。

＜患者の概要＞

（１） 患者

男性（７４歳）、葦北郡在住

（２） 職業

無職

（３） 症状

発熱、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少等

（４） 経過

普段から農作業をされており、ほぼ毎日自宅周辺の草刈りなどを行っていた。
５月２０日頃から体のきつさ、足のもつれ、ふらつき等の症状があった。
５月２３日：水俣保健所管内のＡ医療機関を受診。検査での異常がなく帰宅。
５月２４日：症状が悪化したため、Ａ医療機関を再受診したところ、ダニ媒介性疾患が疑われ、熊本市保健所管内のＢ医療機関に救急搬送し、入院。また水俣保健所を通じて、県保健環境科学研究所に検査を依頼。
５月２５日：ＳＦＴＳ陽性であることを確認。Ｂ医療機関にて加療継続。
６月　１日：入院先のＢ医療機関にて死亡。

（裏面あり）

参考

■重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）とは

・重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）は、マダニに咬まれることで感染し、６～１４日の潜伏期間を経て発症し、発熱、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。致死率は６～３０％とされており、治療は対症療法となります。

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなどの家庭内に生息するダニと異なり、主に森林や草地に生息、全国的に分布しています。

■ダニ媒介性疾患の予防対策

・今回確認されたＳＦＴＳはダニ媒介性疾患の１つです。

・ダニ媒介性疾患の感染予防対策としては、ダニに咬まれないようにすることが重要であり、以下の点に注意して下さい。

① 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。ＤＥＥＴやイカリジン（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。

② 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。

③ 吸血中のマダニに気がついた場合、マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診すること。

④ 野生動物や飼育している動物に注意すること。

■熊本県でのダニ媒介性疾患の年間発生件数（今回の事例を含む） R6.6.6 現在

年	Ｈ18～Ｈ30	Ｒ1	Ｒ2	Ｒ3	Ｒ4	Ｒ5	Ｒ6	合計
ＳＦＴＳ※	13 件	2 件	6 件	9 件	5 件	7 件	6 件	**48 件**
日本紅斑熱	186 件	6 件	17 件	20 件	22 件	22 件	6 件	279 件
つつが虫病	125 件	11 件	14 件	8 件	5 件	19 件	1 件	183 件

※ＳＦＴＳは、平成２５年３月４日から届出対象疾病となった。

記録が残っている平成１８年以降の死亡例は、ＳＦＴＳ１０件、日本紅斑熱４件、つつが虫病０件です（別に、感染症死亡疑い者の遺体からのウイルス検出が平成２８年に１例あり）。

○日本紅斑熱

細菌であるリケッチアに感染することによって引き起こされる病気で、潜伏期間は２～８日、発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴います。抗菌薬を投与します。

○つつが虫病

ダニの仲間であるツツガムシに咬まれることで感染し、５～１４日の潜伏期間を経て、典型的な症例では、３９℃以上の高熱を伴って発症し、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴います。治療法は、抗菌薬の投与です。

（お問い合わせ先）
健康危機管理課　感染症対策班　担当：嶋田、西島
電話：096－333－2240（直通）（内線 33154）